発表とワークショップをしての感想（島根大学行政学ゼミ）

1. 面白い、関心した意見

・「以前観光地で観光客に、なぜここに来たのか、という質問をしたことがある」という意見を聞き、自分からそのような疑問を持ち、実践していたことに感心しました。

・「プレゼンを聞いて、思考を変えれば誇れる場所が見えてくると分かった」という意見を聞き、プレゼン内容を素直に受け止めて考えを持ってくれたことに感心しました。

・境港の誇れるところは？と聞くと、魚と鬼太郎だけでなく、たくさんのいいところが出てきたことに感心しました。普段意識していないところにも魅力がある、ということが少しでも伝わったのではないかと思います。（人が優しい、空気がきれい、水道水がきれいなど）大学進学もしくは就職で境港の残りたいか、もしくは他県に出たいか？との質問への回答

→・IT 関係を学びたい、そのうえで境港にない IT 関係で働きたいから。

・境港では志望学部がないから。

残りたい理由

→・特に外の大学に出たいわけではないから。

・地元の企業に就職したいから。

一度外に出た後再び境港に戻りたい。

→・一度外に出て他県との比較をしたい。

・志望学部がないため一度他県に出る必要があるが、得た能力をその後地元で貢献するために使いたい。

・自転車で移動する高校生の意見。自転車で移動しようと思う限界の所要時間は、約 20～30 分らしい。

・大人からの意見。ゆったりした生活環境・自然災害の少なさ・人的ネットワークの充実から考えると、むしろ暮らしやすいとさえ感じる。

・意外と企業について調べている学生もいた。

・魅力はあると思っているという意見もあった。

・自分たちで誇りをつくることも大切。

・人が優しいのも魅力の１つ。

・自転車のシェアリングで駅に自転車を置くとすると、駅をきれいにしてほしいという意見もあった。

・「楽しくない」のところで、「地元の行事に参加したいか」ということを聞いたとき、高校生が「部活がない時や、昼からであれば行く」ということを言っていたのが印象的でした。

・「誇れない」のところで、「誇れる・誇れない」の基準について、高校生は観光地や有名なところの数の多さが基準であると考えていたのが印象的でした。

「楽しくない」について話したとき、境港の子達が、「楽しくないということもない」と

言う反応をしたこと。
・境港を誇れない理由の一つに道路の整備状況の悪さがある。
・高校生は祭りに参加しても楽しくはないのでは。
・高校生にもマリンスポーツなどで境港をエンジョイしている人もいる。
・祭りに参加したり、観光名所を訪れたりする暇がない（部活が忙しい)。

2. ワークショップをして感じたこと

・誇れない、ということに対して、「考え方を変える」というアイデアは、高校生にはあまり響いていなかったようです。3~4 分という時間の制約がありましたが、その中でも、「考え方を変える」とか「視野を広く持つ」ということの大切さをより強調して伝えられたら良かった、と反省しました。
・誰かが言った意見に対して、自分はこう思う、など、関連性を持って話せたらより良い意見交換になったと思うので、次はそのような雰囲気が作れるように進行していきたいと思います。
・高校生と大学生、委員さんでは、考え方に大きく差があることを改めて感じました。お互いに相手の意見を尊重しつつ、でも自分の考えを主張できたら良かったと思います。
・プレゼンでは、それに対して質問もあり、積極的に関わっていこうという姿勢が良かったと思います。プレゼン中も、しっかりと聞いてくれている様子があり、話しやすかったです。
・世代の違う人たちが集まって話すという機会はやはり新しい発見があるなと感じた。参加すること自体に意義があるし、得られるものは大きかったと思う。
まちづくりに関してはこのワークショップのような若い世代と大人世代の交流の場を設けることが重要だと思う。自分の意見を押し付けることをせず、柔軟な考えを持っている人たちもいて柔らかい雰囲気で行われたと感じた。
・地元の良さを知るためには都会に行ってみた方がいいという意見があったが、実際に「見る」「聞く」ことは大切だと感じた。当たり前にやっていることだが、時には勇気が必要な時もある。その一歩を踏み出すことで見える世界が少しは変わるのではないかと思う。今回異なる世代の意見を聞けたのはよかった。
・高校生、大学生、大人で、それぞれ持っている意見や考え方が違っていたのがとても印象的でした。高校生は都会と比べていたり、ショッピングセンターなど目立つものに注目していたりしましたが、大人は鳥取の特徴に注目していたように思います。他世代と意見を交換することはとても勉強になると感じました。
・“大人”の我々は、“子ども”である、高校生の気持ちを勝手に想像している節があるのではないか。と思った。自分の中で「高校生とはこういうものだ」という高校生像を作って、そこに向けて何かしているような感覚になった。それでは、実際に必要とされていることや、本来の目的を達成することが難しいのも頷けるなと思った。

3. その他感じたこと

・今回境港の高校生に向けてプレゼンをするということで３分間の時間を与えられたがいざやってみると、時間を余らせてしまうという結果に終わってしまった。
その原因としては緊張による早口が考えられる。
そして早口になってしまうということは聞き手も分かりづらくなってしまうのでそこは改善をしなければならないと思った。

・そしてワークショップでは主にホストとして話題を振ったり、意見を出しやすい雰囲気を作るということが上手くできなかった。
この２つの失敗の原因は自らの経験不足が主な理由だと思うのでそれに気づけたことはとても貴重な時間となった。

・誰もが暮らしやすい街を実現するためには、幅広い世代の意見を取り入れることが重要であると再認識させられた。

・視点を変えると、むしろ暮らしやすいという意見が出た。その意見を皮切りに、境港の暮らしづらさは交通事情にあるという話題に発展できたので、短時間の話し合いでも非常に充実したものであったと思う。

・世代によって重視するポイントも変わってくるので、その点についてもよく考えることが大切だと感じた。

・高校生、大人、どちらか一方が自身の思いをただ伝えて時間が終わってしまうというような回もありました。どちらかが一方的に思いを伝えるのではなく、どちらもが意見を言い合い、良い方向へ向かえるような話し合いができれば、より良い場になるのではないかと感じました。

・境港のことを「嫌い」であったり、何か明確な意思、目的を持った子達を引き止める施策作りに注力するよりも、「今のままでいい」と言ってくれる子や、なんとなく「出ていこうかな」と思っている子達に向けて、積極的に、より、境港を好きになってくれる施策作りに注力した方が良いのではないか、と思った。

・“一般”“大勢”受けの良い施策は、すぐに思いつくし、どこかの自治体ですでにやられている可能性が高い。もし先んじて実行できても、効果が出れば、他のもっと「力」のある自治体が質をさらに向上させて真似るだけだと思う。そんな競争をしたところで不幸なだけなので、境港にしかない、ニッチな（一般受けはしないかもしれない）魅力で「尖って」欲しいと思う。

・高校生は本当に暇がない。

・高校生は受け身が基本と考えたほうがいい。